

第四講 「安心と不安」な言葉

★ 「安心」は「心が安らぐ」ことだから「安し」を使う。

★ 「不安」は「気がかり」で「はっきりしない」から起こる。

① 安心系

安し・・・安らかである・おだやかである

後安し・・・心配がない・安心できる・頼もしい

心安し・・・安心である・親しい・たやすい

目安し・・・感じがいい・見苦しくない

※同音に「易し」があり、これは「やさしい・容易である・たやすい」の意。

② 不安系

後ろめたし・・・(成行きが)不安である・気がとがめる

おぼつかなし・・・はっきりしない・不安だ・不審だ・待ち遠しい

心許なし・・・じれったい・気がかりだ・ぼんやりしている

不十分で物足りない

安からず・・・心が落ち着かない・不安だ・妬ましく思う

Ex. 心ばせなどの古びたる方こそあれ、いとうしろやすき後ろ見ならむ

訳 気立てなどが古風であるが、とても安心できる世話役であろう

少納言がもてなし おぼつかなきところなう心にくしと見給ふ

訳 少納言のはからいは 足りないところがなく、奥ゆかしいとご覧になる

まとめて覚える言葉

例文

「かわいいそうで気の毒シリーズ」

①いとほし（形シク）

「★かわいいそうだ ★気の毒だ
困る・いやだ・可愛い」

※入試で出題されるときは現代の意味での「愛
おしい」より圧倒的に「かわいいそう」の意味
でつかわれる。

②こころぐるし（形シク）

「★つらい ★心が苦しい ★気の毒だ
きがかかりだ・心配だ」

③ふびん「不憫・不便」（名・形動ナリ）

「★不都合だ ★かわいいそうなさま・気の毒」

※「ふびんにす」で「かわいいがる」の意で用
いることもある。

④びんなし「便なし」（形ク）

「★都合が悪い・具合が悪い ★気の毒だ
感心しない・よくない」

「言い過ぎシリーズ」

⑤こちたし「言痛し・事痛し」（形ク）

「★おおげさである・仰々しい
はなはだ多い・おびただしい
うるさい・わずらわしい」

※「相手の言った事がイタい、そんな感じ」

⑥おどろおどろし（形シク）

「気味が悪い・ひどい
仰々しい・おおげさである」

⑦ものものし（形シク）

「いかめしい・厳かだ・立派だ
おおげさだ・こしやくだ」

⑧ことごとし「事事し」（形シク）

「おおげさだ・仰々しい」

※似た音で「ことごとく（副詞）」があるが、
漢字は「尽く・悉く」とあて「全部・すっか
り・まったく」の意となる

①熊谷あまりにいとほしくていづくに刀をた
つべしとおぼえず

↓熊谷は（相手が）あまりにもふびんであつて
どこに刀をあてるのがよいともわからない

②思はむ子を法師になしたらむこそこころぐ
るしけれ

↓愛する子がいるとして、その子を法師にして
いるとしたらそれは気の毒だ

③それを罪なはんことふびんのわざなり

↓それを処罰するようなことは気の毒な行為
である

※芸ある者をば下部までも召しおきて、ふびん
にせさせ給ひければ

↓ひとかどの芸を持つ者を身分の低い者まで
も召しかかえて面倒をみていらつしやつた
ので

④人目多くてびんなしければ

↓（こちらを）見る目が多くて具合が悪いから

⑤いきほいこちたきを見るに

↓威勢が仰々しいのを見ると

⑥さみだれも過ぎていとおどろおどろしく
かきたれ雨のふる夜

↓梅雨（の時期）も過ぎたというのに、たいそ
う気味悪く激しく雨の降る夜。

⑦いともものしくきよげによそほしげに
下襲の裾ながく引き

↓たいそう重々しく美しい感じで装いをこら
した様子で下襲の裾を長く引いて

⑧何事にかあらんことごとしくのしりて

↓何事であろうか、おおげさにわめきたてて

※よからぬことどもうち続きで、五穀（ことごと）
くならず

↓よくないこと（災害）があれこれと続いて、
農作物は全て実らない。